

## 平成 28 年度 学校経営計画および学校評価

## 1 めざす学校像

校訓の『自由と規律』と教育目標の『明るく、逞しく、心爽やかに』を念頭に、言動と行動を自ら統御（コントロール）し、その言動と行動に責任を負い、国際社会に通用する人間の育成を図る。

## 2 中期的目標

## 1. 確かな学力の育成

- ① 成績不振者には、補習を通して基礎学力の定着を図る。
- ② 3年間を通じた計画的な講習の実施により、早期から進路実現に向けて努力させる。
- ③ 生徒、保護者の希望や意向に耳を傾け、研究授業や授業見学を計画的に実施し、教員の授業力向上に取り組む。
- ④ 朝の連絡会やSHRを通して生徒の状況を把握し、基本的な生活習慣の改善指導を行い、遅刻や欠席を減少させる。
  - ※ 原級留置となる生徒の減少をめざし、平成 30 年度には 0.5%（5 名）以下とする。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「基礎的・基本的な内容が学習できている」（平成 27 年度 72%）を毎年 2 ポイントずつ引き上げ、平成 30 年度には 78%以上とする。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業レベルは自分に合っている」の項目（平成 27 年度 68%）を毎年 2 ポイントずつ引き上げ、平成 30 年度には 74%以上とする。
  - ※ 遅刻および欠席数（平成 27 年度 5511 件）を毎年 200 件ずつ減少させ、平成 30 年度には 5000 件以下とする。（12 月末で比較）

## 2. 夢と希望を持つ生徒育成

- ① 進路指導の充実
  - ・ 3年間を通して計画的に継続して進路指導に取り組み、各大学や専門学校そして職業などについてキャリア教育を行う。
  - ・ 進路説明会は保護者が参加しやすいよう原則として土曜日開催とする。
  - ※ 進学率 90%以上、未定率 1%以下を維持する。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断の「進路に関する情報が十分提供されている」の項目（平成 27 年度 71%）を毎年 2 ポイントずつ引き上げ、平成 30 年度には 77%以上とする。
- ② コミュニケーション能力の育成
  - ・ 進路実現に必要な情報を収集するだけでなく、生徒が自分で判断できる力を身につけさせる。また、授業を含め多くの機会を活用し、自分の意見を発表できるプレゼンテーション能力を育成する。
  - ・ 学校行事やクラブ活動への積極的な参加を促し、自主的に活動を行うことで、生徒の自己肯定感を養う。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断の「自分の考えをまとめたり発表したりする授業がある」の項目（平成 27 年度 51%）を毎年 2 ポイントずつ引き上げ、平成 30 年度には 57%以上とする。

## 3. 安全安心で魅力のある学校づくり

- ① 「生きた壁」となる教職員集団の構築（生徒の悩みや不満を真正面から受け止め、話を聞いてもらえると生徒が感じる環境「生徒の居場所づくり」と、あかんものはあかと丁寧に対応する「規律指導」を、教職員一人ひとりが「生きた壁」となって生徒と向き合って実施し、生徒が壁を乗り越える力を育成する）
  - ・ 職員室を有効利用し、日頃から生徒の状況について情報交換ができる環境づくりを、教職員一人ひとりが意識して取り組む。
  - ・ 教育相談体制を充実させ、生徒や保護者そして教職員も安心して相談できる体制を作る。
  - ・ 教職員が教育相談に関する研修に積極的に参加し、その成果を校内研修で活用することで、全教職員の指導力の向上を図る。
  - ・ 「すべての教職員が生活指導部」として取り組み、事象が起こったときは、その場で丁寧に対応し、「安全で安心な学校づくり」に取り組む。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断の「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の項目（平成 27 年度 51%）を毎年 2 ポイントずつ引き上げ、平成 30 年度には 57%以上とする。
- ② 共に学ぶ支援教育の推進
  - ・ さまざまな特性をもつ生徒たちが互いの違いを認め合い、「共に生きる」精神を育成し、学校に来るのが楽しいと感じる環境を作る。
  - ・ 支援が必要な生徒には、適切な支援計画を作成し、組織として取り組む。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」の項目（平成 27 年度 69%）を毎年 2 ポイントずつ引き上げ、平成 30 年度には 75%以上とする。
- ③ 豊かな高校生活を送らせる
  - ・ クラブや文化祭などの生徒の自主的な活動を活性化させるために、仲間と協力して内容の充実をめざすよう教職員が支援する。
  - ・ 体育大会やマラソン大会を通して、全力で取り組む精神力と体力を養う。
  - ・ 専門的知識と技術を持つ教職員を中心に、クラブ活動の活性化を図り、若手教職員の指導者育成に取り組む。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断の「ホームルーム活動等のクラス活動は活発で、よくクラス全体で取り組んでいる」の項目（平成 27 年度 51%）を毎年 2 ポイントずつ引き上げ、平成 30 年度には 57%以上とする。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断の「文化祭は、みんなが積極的に参加している」の項目（平成 27 年度 65%）を毎年 2 ポイントずつ引き上げ、平成 30 年度には 71%以上とする。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断の「体育大会は、みんなが積極的に参加している」の項目（平成 27 年度 71%）を毎年 2 ポイントずつ引き上げ、平成 30 年度には 77%以上とする。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断の「学校全体として、クラブ活動は活発である」の項目（平成 27 年度 68%）を毎年 2 ポイントずつ引き上げ、平成 30 年度には 74%以上とする。
  - ※ クラブ加入率（平成 27 年度 51%）を毎年 2 ポイントずつ引き上げ、平成 30 年度には 57%以上とする。

## 4. 地域と連携した学校づくり

- ① 学校Webページを充実させ広報活動に努める。
  - ・ ブログの定期的な更新。
  - ・ 生徒や保護者を通して学校Webページを周知してもらう。
- ② 地域との連携、相互理解に取り組む
  - ・ 地域住民や地元中学校そして保育園等と連携して、授業やクラブを中心に交流を行う。
  - ・ 文化祭の土曜開催。
- ③ 広報活動の充実
  - ・ 本校で開催するオープンスクールを充実させ、中学生や保護者に情報を提供し、来校を促す環境を作る。
  - ・ 広報委員会で中学校訪問等を計画し、全教職員で取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b>                      ・今年度は校内での研究授業や他校への授業見学等を積極的に行うと共に、授業アンケートの結果を下に各教員が授業改善に努めたが、教職員アンケートで「指導方法や学習形態の工夫・改善」についての肯定的な回答が 87%であったのに対し、生徒向けアンケートでの「授業はわかりやすい」についての肯定的な回答が 56%となっている。この差が生じた要因の精査と改善策の検討が喫緊の課題である。</p> <p><b>【生徒指導等】</b>                      生徒向けアンケートで「学校生活についての先生の指導は納得できる」についての肯定的回答は 51%で、教職員アンケートでの「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」についての肯定的回答が 42%といずれも低い結果であった。生徒指導をはじめさまざまな指導を行っていくうえで、カウンセリングマインドを取り入れて、納得させる指導を行う必要がある。生徒用アンケート「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」、教職員用アンケート「教育相談体制」については、それぞれ 53%、71%と大きな差がある。このことについては、教育相談体制が生徒の実態に合ったものとなっていないと考えられるので、今後教育相談体制を見直していく必要がある。</p> <p><b>【学校運営等】</b>                      保護者向けアンケートで「家庭への連絡や意思疎通」についての肯定的回答は 50%と低い結果となっており、昨年度と比較しても 2%下がっている。今年度メール配信を行ったことについては好意的な意見が記述回答で見られたが、保護者の要望に答えられていない部分もあるので、今後担任を中心として家庭との連絡を密にする必要がある。                      保護者向けアンケートの「進路に関して家庭への情報提供」に関して肯定的な回答が 54%であり、昨年度より 8 ポイント下がっている。HR を通じてさまざまな情報提供を行っているが、それが保護者に伝わっていないと考えられるので、メール配信等も利用し、保護者にも情報が伝わるようにする必要がある。                      生徒向けアンケートの「学校図書館の利用」肯定的な回答が、昨年度より 7 ポイント減少し、14%にとどまっている。若者の読書離れ、活字離れが問題になっているが、生徒が読書に興味を持つような工夫を授業や総合的な学習の時間を使って行う必要がある。</p>	<p>第 1 回(6 月 30 日実施)                      ・ Web ページ、メール配信の実施により親子のコミュニケーションが減るのではないかと。→メール配信については細かい情報までは配信せず、保護者が生徒とコミュニケーションを取る機会になれば良いと考える。                      ・ 40 期生の進学先がそれまでと異なっていることについて                      →早期に進路を決定したい生徒、保護者が増えている。進路講演会や進学講習を実施し、最後まで頑張れるよう指導する。                      ・ 下足室、ロッカーなど校内の美化環境がよくなった。                      →環境を整備することにより生徒の意識も変わったのでは。今後も指導を継続していく。                      ・ Web ページの更新、メール配信等学校の情報がわかるようになってきているのがいい。                      ・ 支援の必要な生徒に対する配慮も考えて授業を行ってほしい。</p> <p>第 2 回(11 月 25 日実施)                      ・ メール配信をすることで逆に親子の会話ができるので、修学旅行、文化祭などこまめに配信することがメールを見る習慣に繋がる。                      ・ 生徒に関しての連絡など、教員が情報共有を行うことは重要である。朝の連絡会はぜひ実施してもらいたい。                      ・ 若手の勉強会は今後も継続して行ってほしい。                      ・ 若手が増えてきているので、ハラスメント等の注意喚起という意味も含めて、職員研修の充実を図ってもらいたい。                      ・ 志願者数の増加に向けて今後も取り組んでもらいたい。                      ・ 生徒たちは落ち着いて授業を受けていたが、一方的な講義型の授業から、生徒が積極的に参加する授業への工夫をしてもらいたい。                      ・ オープンスクールで生徒が主体で進化したのはよかったと考える。今後もこの形を継続してもらいたい。</p> <p>第 3 回(2 月 21 日実施)                      ・ 「家庭への連絡や意思疎通について」懇談や日常の連絡と共にメール配信を活用してもらいたい。                      ・ 志願者の増加に向けて、貝塚南に行けばこれがあるという目玉になるようなもの(クラブ・施設など)を作って欲しい。                      ・ 学校行事(文化祭・体育大会・修学旅行など)を中学生が興味を持つような形にしてはどうか。                      ・ クラブの加入率増加に向けて、生徒がやりたいクラブができる(新しく)ようにしてはどうか。                      ・ 修学旅行も中学生にとっては関心を持つものなので、学校としてアピールできる材料になるので貝塚南としての方向性が良かった方がよい。</p>

3 本年度の取組内容および自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 学力向上の取り組み</p> <p>(2) 質の高い授業の提供</p>	<p>(1) ①学校全体の授業力向上をめざし、授業改善を組織的に取り組む</p> <p>②国語、数学、英語の少人数展開授業を生徒の学力に応じたものとなるように充実する</p> <p>(2) ③成績不振者に対し補習を行い、基礎学力の定着を図る</p> <p>④授業アンケートを活用し、授業力向上を図る</p> <p>⑤ICT 機器の活用やアクティブラーニングなどを通じて、生徒が積極的に授業に参加し、効率よく生徒の理解を図る授業を実施する</p> <p>⑥日常的に相互授業見学を実施するとともに、授業見学週間を設け、教員が共に学び合う機会を設ける</p>	<p>(1) ①授業アンケートを有効に活用 学校教育自己診断(生徒)の「授業レベルは自分に合っている」の肯定的回答(H27 68%)70%以上を目標とする</p> <p>②学校教育自己診断(生徒)の「基礎的・基本的な内容が、各教科の授業で学習できている」の肯定的回答(H27 72%)74%以上を目標とする</p> <p>(2) ③不振者に対する補習および質問会を計画的に実施 補習については年間述べ 25 回以上実施</p> <p>④各教員、教科、学年が集計結果を基に改善策を検討し改善シートを提出</p> <p>⑤ICT 機器の活用やアクティブラーニングを積極的に実施している学校への見学を積極的に行うと共に、校内での研究授業、研修等を実施し、生徒が能動的に参加する授業を行っていく</p> <p>⑥相互見学の実施回数年間述べ 60 回以上、授業見学週間の実施</p>	<p>(1) ①7 月・11 月に実施 →集計結果(教科別・個人票・講座別・科目別等)を個人に返却 「授業レベルは自分に合っている」の肯定的回答 67.7%(△) 次年度は、授業力向上の組織を立ち上げ、より組織的に授業力向上に取り組む</p> <p>②「基礎的・基本的な内容が、各教科の授業で学習できている」の肯定的回答 70.7%(△) 次年度は、数学および英語で習熟度別少人数授業を実施する</p> <p>(2) ③成績不振者等に対する補習 181 回、質問会 57 回実施(◎)</p> <p>④改善シート、各教員が提出し、管理職が授業観察を行い、アンケート・改善シートも活用し、面談実施(○)</p> <p>⑤他校への授業見学や授業研究に関する研修会等への出席 29 名、校内での研究授業 6 回(○)</p> <p>⑥2 学期に授業見学週間実施。年間通じての相互見学実施回数延べ 160 回(○)</p>

<p>2 夢と希望を持つ生徒育成</p>	<p>(3)進路指導の充実  (4)コミュニケーション能力の育成</p>	<p>(3) ⑦3年間を見通した指導に取り組み、入学後早い段階からHRや総合的な学習の時間等を通じて、計画的にキャリア教育を行う  ⑧進路目標達成に向け、進路指導部が中心となり、進学や就職のための説明会や講習を計画・実施する  (4) ⑨各授業、HR、総合的な学習の時間、学校行事などを通じて、班活動の実施や生徒が発表する機会を増やす</p>	<p>(3) ⑦HRでの取り組み各学年4回以上実施 学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答(H27 71%)73%以上を目標とする  ⑧各学年、目的別等で合計25回以上実施、学年別に進学講習を述べ30回実施  (4) ⑨学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答(H27 51%)53%以上を目標とする</p>	<p>(3) ⑦進路HR等1年4回、2年5回、3年2回実施(○) 「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答69.2%(△) 次年度は総合的な学習の時間も活用すると共に、進路だよりを定期的に発行し、特に1・2年に対しての進路情報の提供を充実させる  ⑧進学や就職のための説明会33回、進学講習1年33回、2年74回、3年282の計389回実施(◎) 次年度は説明会、講習共に内容を充実させる  (4) ⑨「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答51.0%(△) 次年度は総合的な学習の見直しや、授業力向上の取り組みの中で、発表の機会を増やすよう検討する</p>
<p>3 安全安心で魅力のある学校づくり</p>	<p>(5)教員の生徒指導力の育成  (6)生徒指導の充実  (7)共に学ぶ支援教育の推進  (8)豊かな高校生活の実現  (9)教職員の資質向上と意識改革</p>	<p>(5) ⑩職員室のより効率的な活用法を検討し、日常的に生徒情報の共有を図ると共に、指導力向上を図る また、職員会議や研修を通じて、生徒情報共有、指導力向上に努める  (6) ⑪朝の登校指導やSHRを通じて、遅刻指導、服装・頭髪指導を行う  (7) ⑫お互いの違いを認め合い「共に生きる」精神を醸成し、学校に来るのがより楽しく感じる学校環境にする  (8) ⑬部活動紹介や体験入部を通じ、部活動入部率の向上と部活動活動の活性化を図る  ⑭各分掌等が主催する研修を計画・実施する 若手教員を中心とした勉強会を積極的に実施し、授業力、生徒指導力向上を図る  (9) ⑮組織的な学校経営をめざし、管理職・首席による企画会議や、運営委員会で具体的な方針を立て実行する</p>	<p>(5) ⑩職員室机配置を再検討し、日常的に情報共有ができるようにする  毎回の職員会議にて生徒情報の共有等行う  (6) ⑪朝の登校指導や昼休みの指導の継続実施 年間述べ遅刻回数(H27 3948回)3800回以下を目標とする  (7) ⑫HRや人権研修を通じて、意識の向上 学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答(H27 59%)61%以上を目標とする  (8) ⑬部活動加入率(H27 53%)55%以上を目標とする  ⑭年間5回以上の研修を実施  (9) ⑮会議を毎週行うと共に、具体的施策の提案、実施</p>	<p>(5) ⑩職員室に全教員の机を配置することを1学期決定。夏季休業中に整備完了。情報共有のためにプロジェクト設置(◎) 次年度は、朝の職員連絡会を実施する  (6) ⑪朝の登校指導、昼休みの巡回毎日実施 遅刻回数3955回(1年933回、2年1372回、3年1650回)(○) 次年度は遅刻の多い生徒への指導内容の見直しを行い、遅刻が多い生徒の人数を減らす。  (7) ⑫人権HR1年4回、2年2回、3年2回実施、人権行事1回実施 「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答66.8%(◎)  (8) ⑬クラブ紹介実施、体験入部2日実施、部活動加入率50.5%(△) 次年度は部活動紹介の内容を充実させ部活動加入率を向上させる  ⑭6回の職員研修、8回の若手勉強会実施 他校への授業見学を含めた研修会(11/21)に10名が参加(◎)  (9) ⑮総合的な学習の時間の見直し、職員室の活用等提案(○)</p>

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 地域と連携した学校づくり	(10) 開かれた学校作り	(10) ⑩広報委員会が中心となり、学校Webページの情報更新を活発に行う  ⑪保護者への連絡を印刷物だけでなく、Webページやメール配信の活用を検討する	(10) ⑩週3回以上の情報更新を目標  ⑪学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答(H27 52%)60%以上を目標とする	(10) ⑩5月Webページのリニューアル、ブログの更新232回(◎) Webページのアクセス数(23,137回)  ⑪「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答50%(△) 6月よりメール配信の開始、日常的に情報発信(28種類53通)(◎)  次年度は、学校教育自己診断保護者からの記述回答欄で出た意見を元に改善を行う
	(11) 地域への情報発信	(11) ⑫貝塚警察署との連携で実施しているボランティア活動を継続発展させる	(11) ⑫年間述べ5回以上の活動を実施	(11) ⑫KEYSの活動7回、保育体験実習の実施(希望者対象:事前学習1回+実習2日、授業:延べ12回)(◎)
	(12) オープンスクールの活性化	(12) ⑬部活動オープンスクール、体験授業オープンスクール、文化祭の公開などを通じて、中学生向けに本校の取り組みを発信する	(12) ⑬さまざまな形で年間3回以上実施	(12) ⑬8月下旬に部活動オープンスクールの実施(133名)、文化祭の公開化(卒業生92名、保護者270名、3年招待者70名、中学3年生90名、学校関係者33名計555名)、体験授業オープンスクールの実施(152名)校外での説明会7回実施(◎)